



平成 22 年 6 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社ハイレックスコーポレーション
 代表者名 取締役社長 寺 浦 實
 (コード番号 7279 大証第二部)
 問合せ先 経理グループマネージャー 芦 田 安 功
 (TEL 0797 — 85 — 2500)

第2四半期累計期間業績予想と実績の差異および 通期業績予想の修正ならびに特別損失に関するお知らせ

平成 22 年 3 月 8 日に公表しました平成 22 年 10 月期第 2 四半期累計期間(平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 4 月 30 日)の業績予想と実績に下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、同じく平成 22 年 3 月 8 日に公表しました通期(平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 10 月 31 日)業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。あわせて、平成 22 年 10 月期第 2 四半期累計期間において特別損失を計上しましたのでお知らせいたします。

記

- 1 平成 22 年 10 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想と実績の差異(平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 4 月 30 日)
(単位:百万円未満切捨て, %)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	56,900	4,700	4,800	3,070	80 円 84 銭
今 回 実 績 (B)	62,273	5,944	6,559	4,198	110 円 54 銭
増 減 額 (B-A)	5,373	1,244	1,759	1,128	—
増 減 率 (%)	9.4	26.5	36.7	36.7	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 10 月第 2 四半期実績)	45,666	△64	△804	△1,297	△34 円 17 銭

- 2 平成 22 年 10 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 10 月 31 日)
(単位:百万円未満切捨て, %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	107,100	7,800	7,850	4,950	130 円 34 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	117,600	9,900	10,100	6,420	169 円 05 銭
増 減 額 (B-A)	10,500	2,100	2,250	1,470	—
増 減 率 (%)	9.8	26.9	28.7	29.7	—
(ご参考) 前 期 実 績 (平成 21 年 10 月 期)	94,861	2,759	2,372	1,171	30 円 85 銭

3 平成22年10月期第2四半期累計期間個別業績予想と実績の差異（平成21年11月1日～平成22年4月30日）

（単位：百万円未満切捨て，％）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A）	28,600	1,780	1,850	1,310	34円48銭
今回実績（B）	30,985	2,252	3,042	2,069	54円47銭
増減額（B-A）	2,385	472	1,192	759	—
増減率（％）	8.3	26.6	64.5	58.0	—
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成21年10月第2四半期実績）	21,518	△188	162	△2,526	△66円50銭

4 平成22年10月期通期個別業績予想数値の修正（平成21年11月1日～平成22年10月31日）

（単位：百万円未満切捨て，％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	54,100	2,570	3,530	2,400	63円17銭
今回修正予想（B）	57,800	3,460	4,820	3,180	83円70銭
増減額（B-A）	3,700	890	1,290	780	—
増減率（％）	6.8	34.6	36.5	32.5	—
（ご参考）前期実績 （平成21年10月期）	47,815	1,089	1,820	△3,059	—

5 業績予想と実績の差異および業績予想修正の理由

当第2四半期累計期間（平成21年11月1日～平成22年4月30日）の実績は、前回公表業績予想において想定していたよりも各国の自動車生産が好調であったこと、収益改善活動が計画よりも大きな成果をあげたこと、特別損失として有価証券評価損4億5千3百万円を計上しましたが、一方で特別利益として貸倒引当金戻入額2億5千8百万円および製品保証引当金想定1億8千8百万円等を計上したこと、レート1ドル86円に対し円安で推移したこと等によりまして、前回発表予想を上回りました。

通期（平成21年11月1日～平成22年10月31日）の業績予想は、最新の情報に基づく販売予想の見直しおよび当第2四半期累計期間における収益改善を踏まえた収支予想の見直しを行った結果、前回発表予想を上回る見込みとなりました。

6 特別損失に関するお知らせ

当第2四半期累計期間（平成21年11月1日～平成22年4月30日）におきまして、連結業績並びに個別業績とも特別損失として投資有価証券評価損を4億5千3百万円計上いたしました。

その内訳は、保有する時価のある有価証券（1銘柄）が取得原価に対し50%以上の下落をしたことに伴う減損処理によるものが2億5千6百万円、保有する時価のない有価証券の回復不能見込み額に対する減損処理によるものが1億9千7百万円であります。

平成22年10月期第2四半期末の投資有価証券評価損の総額

	連結	単独
(A)平成22年10月期第2四半期末の有価証券評価損の総額	453百万円	453百万円
(B)連結：平成21年10月期の純資産の額 単独：平成21年10月期の純資産の額 (A/B×100)	74,421百万円 (0.6%)	54,562百万円 (0.8%)
(C)連結：平成21年10月期の経常利益額 単独：平成21年10月期の経常利益額 (A/C×100)	2,372百万円 (19.1%)	1,820百万円 (24.9%)
(D)連結：平成21年10月期の当期純利益額 単独：最近5事業年度の当期純利益の平均額 (A/D×100)	1,171百万円 (38.7%)	1,991百万円 (22.8%)

7 特別損失の今後の見通し

保有する時価のある有価証券につきましては、四半期洗替え法を採用しており、期末日の時価等により損失の計上額が変動いたします。

欧州金融不安等により、現在の証券市場における株価は、当第2四半期会計期間末日（平成22年4月30日）の株価と比べて大きく下落をしており、当社保有の有価証券も同様に下落しております。期末日の株価によりましては、減損処理をする銘柄数の増加等により特別損失の金額が増加する可能性があります。

なお、当社保有の時価のある有価証券の、当第2四半期累計期間末日（平成22年4月30日）から直近での含み損益の下落状況は以下の通りであります。

【参考】時価のあるその他有価証券の含み損益の下落状況

(単位：百万円)

当第2四半期累計期間末日 (平成22年4月30日現在)			公表日前月末日 (平成22年5月31日現在)			差額増減 =(b)-(a)
取得原価	時価	差額(a)	取得原価	時価	差額(b)	
5,554	15,037	9,483	5,554	13,179	7,625	△1,857

以 上